

華東師範大学

二〇〇〇年攻读硕士学位研究生入学试题

考试科目: 综合日语

专 业 日语语言文学

氏名 _____ 得点 _____

共 4 页

総 合 試 験

(180 分内完成)

I、次の外来語の意味として適切なものを①～⑨より選びなさい。(5点)

ア、エスプリー ()

イ、カルチャー ()

ウ、デカダン ()

エ、カテゴリー ()

オ、バトス ()

①範疇 ②文明 ③情熱 ④精髓 ⑤皮肉 ⑥退廃的 ⑦逆説 ⑧独断 ⑨文化

II、次の漢字を片仮名に書き改めなさい。(10点)

1、解脱

2、権化

3、益体

4、功德

5、流布

6、発起

7、相殺

8、遂次

9、更迭

10、履行

III、同じ読みの(a)(b)の括弧に、適する語を入れ熟語を完成しなさい。(5点)

1、(a) () 求

2、(a) () 性

3、(a) () 入

(b) () 算

(b) () 落

(b) () 水

4、(a) () 裕

5、(a) () 断

(b) 猶 ()

(b) () 培

IV、次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(30点)

桜の盛りは短くて、満月と出会うのは、なかなか難しいことであります。満月はこの場、ただ、一夜です。もし、その夜が曇りか雨になれば見ることはできません。自然は常に変化してゆくものですし、それを見る私たち自身も、日々移り変わってゆきます。花が永遠に咲き、月が毎晩丸い形で空に浮かび、私たちも永遠にこの地上に存在しているなら、これらの巡り合いは何の感動も起こらないでしょう。花を美しいと思う心の底には、お互いの生命をイツクシミ① ()、地上での短い存在の間に巡り合った喜びが、ムイシキ② () のうちにも、感じられているに違いありません。

このような感じ方は、わたしだけのものではなく、多くの日本人に通じるものです。さらに、この点に考えてみましょう。日本では、昔からお茶の会の心得 a () として、よく使われる「一期一会」b () (一生にただ一度のこと) という言葉があります。たとえ、親しい人々同士の集まりの茶会でも、ゲンミツ③ () にいえば、それは、生涯に一度のことと思わねばならないという意味です。生涯にただ

一度と思えば、客のほうも、客を迎える亭主 c () も、共に深い心が籠り d () この巡り合いを大切に作る心構えが生まれるからです。茶の精神の根本はここにあるのでしょう。やはり、日本人の美の精神とも繋 e () っています。

日本人の精神の中で、巡り合いを大切に思う心は、(ア) がコンテイ④ () にあると思われます。時が過ぎ去るのではなく、私たちこの世に存在するすべてのものが過ぎ去ってゆく、すなわち「無常」という宿命の中に、私たちすべてが存在しているという認識が基になっていると思います。

人間はもとより、世の中のすべてのものは過ぎ去ってゆく。これは動かしがたいことです。しかし、相手も自分も共に過ぎ去ってゆくという認識の上に、初めてお互い同士が、いまこの時を同時に生きているという緊張感が起きます。そこにお互いの心が通じ合い、レンタイカン⑤も、また愛と美も生まれるということになります。

(東山魁夷「美の心」より)

問題1、茶の精神の根本はどこにあると言っているか簡単に答えなさい。(5点)

問題2、傍線部①～⑤のカタカナを漢字に直しなさい。(5点)

問題3、傍線部 a～e に読み仮名をつけなさい。(5点)

問題4、空欄アに入るものを選びなさい。(5点)

- | | |
|-----------------|-----------------|
| ア、出会いを幸福な運と見る心。 | イ、人生を旅と見る心。 |
| ウ、宿命を必然と見る心。 | エ、伝統に回帰しようとする心。 |
| オ、生涯を時間と見る心。 | |

問題5、「無常」という認識と裏返しの認識を、筆者はどのように言っているか、30字以内で書きなさい。(10点)

V、次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(25点)

読書には見えず、それを書いた人間に見えてくるのには相当な時間と努力とを必要とする。人間から出てきて文章となったものを、再び元の人間に返すこと、読書の技術というものも、そこ以外にはない、もともと出てくるときに、明らかな筋道を踏んできたわけではないのだから、元に戻す正確な方法があるわけではない。

要するに読書は暗中 (a) する。創った人を求めようとして、創った人のまねをするのだ。なるほど、作者という人間を知ろうとして、その作家に関する伝記その他の研究を読んだり、その時代の歴史を調べたり、というようないろいろな方法があるが、それは碁将棋でいえば、定石のようなものだ。定石というものは、勝負の正確

を期するために案出されたものに違いないが、実際には勝負の不正確さ曖昧さを、いよいよ鋭い魅力あるものにする作用があるだけだ。①人間は厳正な知力を傾けて、曖昧さのうちに遊ぶようにできている。

読書百遍とか読書（ b ）とかいう読書に関する漠然たる教訓には、容易ならぬ意味がある。おそらく後にも先にもなかった読書の達人、サント・ブーブも、呆然たる言い方は非常にきらいであったが、読書については、同じように曖昧な教訓しか残さなかった。

「人間をよく理解する方法は、たった一つしかない。それは、②彼らを急いで判断せず、彼らの傍らで暮らし、彼らが自ら思うところを言うに任せ、日に日にのびてゆくに任せ、ついに僕らのうちに、彼らが自画像を描き出すまで待つことだ。故人になった著者でも同様だ。読め、ゆっくりと読め、成り行きに任せたまえ。ついに彼らは彼ら自身の言葉で、彼ら自身の姿を、はっきり描き出すに至るだろう。」

なぜ、こういう教訓が容易ならぬ意味をもつか。こういうふうに、まにあわせの知識の助けを借りずに、他人をじかに知ることこそ、実は、本当に自分を知ることにはかならずからである。人間は自分を知ること、他人という鏡をもっているだけだ。自己反省とか自己分析とかいう③浪漫派文学の産んだ精神傾向は、感傷と（ c ）との惑わしに満ちた、架空な未熟な業に過ぎない。

今日のような書物の（ d ）の中にいて、何を読むべきかと思案ばかりしていても、流行に書名を教えられるが関の山なら、これはと思う書物に（ e ）して、読み方の工夫をする方が賢明であろう。小説の筋や情景のおもしろさに心奪われて、これを書いた作者という人間を決して思い浮かべぬ小説読書が無邪気というなら、なぜ進んで、たとえば、カントを学んで、カントの思想に心を奪われ、カントという人間を決して思い浮かべぬ学者を④無邪気と読んではいけないか。読書の技術のつたないために、書物から亡霊しか得ることができない点で、決して甲乙はないのである。

小林秀雄「読書について」

問題 1、文中の空欄 a ～ e に次の語群から最も適するものを選びなさい。（5点）

- | | | | | |
|----------|------|------|------|------|
| (a)、ア、茂索 | イ、模索 | ウ、喪索 | エ、裳索 | オ、模錯 |
| (b)、ア、三到 | イ、三等 | ウ、三冬 | エ、三当 | オ、算答 |
| (c)、ア、去栄 | イ、抛影 | ウ、虚栄 | エ、居営 | オ、許衛 |
| (d)、ア、反乱 | イ、半卵 | ウ、犯濫 | エ、判覧 | オ、汜濫 |
| (e)、ア、収着 | イ、秀嫡 | ウ、就着 | エ、執着 | オ、襲着 |

問題 2、傍線部①の「曖昧さのうちに遊ぶ」というのはどういうことか、次の解釈の中から、最も適当と思うものを答えなさい。（2点）

- | | |
|--------------------|-------------------|
| ア、暗中で思いなやむ状態 | イ、碁の定石を知ることと同じ |
| ウ、作者という人間を知ろうとする状態 | エ、人間は曖昧な状態が好きである。 |

問題 3、傍線部②は誰のことを指すのか、十五字以内で答えなさい。（5点）

問題4、傍線部③の「浪漫派文学の精神傾向を未熟である」というのはどういう理由からか、次の中から適切と思うものを選びなさい。(3点)

ア、自己反省で著者をよく理解できているから

イ、他人をじかに知ることが、本当に自分を知ることになることを忘れていてから

ウ、感傷に惑わされて架空の自己しかわからないから

エ、サント・ブウブの教訓から縁遠い主義をもっているから

問題5、傍線部④の「無邪気」と呼ぶのはどんな人のことをいうのか、指定文字数で答えなさい。(二十字以内で)(10点)

VI、次の故事成語の()に当てはまる動物名を書き入れなさい。(10点)

ア、() 耳東風 イ、暴() 馬河 ウ、() 頭狗肉 エ、登() 門

オ、九() の一毛 カ、() 合の衆 キ、() に小判

ク、() の一声 ケ、() 寝入り コ、() に真珠

vii、近代文学の芽生えに関して論じなさい。(15点)

1、二葉亭四迷の小説「浮雲」は、どのような意味で近代小説のさきがけとなったのでしょうか。

2、与謝野晶子は雑誌「明星」にどんな短歌を発表しましたか。

3、近代日本文学の一頂点を示すといわれる「破戒」とはどんな小説ですか。

4、本の自然主義文学の小説は、その後どのような小説にかわっていきましたか。

5、森鷗外はどのような文学活動をしましたか。その代表作を三つあげてください。